

2017年3月期 決算説明会 主要Q&A

Q：2017年3月期は受注・受注残ともに大幅に伸びたが、その内訳を教えてください。また、受注残の増分が売上へ寄与するタイミングは。

A：2017年3月期の受注は2,529億円と2016年3月期の2,298億円から231億円増えました。業務ソリューションが279億円の増です。主として複数の大型案件を受注した社会公共の+270億円が大きく貢献しました。

一方、サービスソリューションは48億円の減です。主として鉄鋼向けの反動減です。

また、大幅な受注増加に伴い期末受注残も2016年3月期の970億円から2017年3月期の1,174億円へ204億円増えました。この増加分の売上時期は約4割が2018年3月期で、上期に半分、下期に半分それぞれ計上となる見込みです。

Q：2017年3月期下期の粗利率の低下の背景を教えてください

A：下期は対前年比較で売上高総利益率が19.3%→19.1%と-0.2%減少しました。

2016年3月期下期の売上高総利益率19.3%には、金利低下に伴うPBO割引率低下の影響-9億円があり、これを除くと20.2%でした。

2017年3月期下期の売上高総利益率は19.1%でPBO影響を除くと-1.1%、この率差で-14億円の減益となります。この悪化の要因は、4Q期の売上に低粗利(2~3%)のプロジェクト販売が約50億円含まれていた事で-10億円。赤字案件の影響-7億円などでした。

Q：クラウドの実績と、今期の見通しは。

A：クラウドの売上実績ですが、2017年3月期は140億円です。2016年3月期の120億円から20億円伸びました。2018年3月期は、同様に20億円伸ばす160億円を計画しています。

Q：2018年3月期の設備投資計画が80億円と、最近の投資水準から（特に上期で）大きく増えていますが、内容を教えてください。

A：当社の設備投資は2016年3月期が約45億円、2017年3月期が約48億円で、45~50億円が通常の規模感です。2018年3月期は、昨年度受注した官公庁向け大型案件について、当社が資産取得しサービスを提供する事となっているため、上期に大きく増加しています。

Q：2017年3月期に2件の赤字引当案件があったという事ですが、その案件の完了予定はいつですか。また、同案件で2018年3月期も引当額を超えて赤字が発生するリスクはありますか？

A：今回の2件は、いずれも2017年12月に完了の見通しです。また、プロジェクトコントロールの強化も含めて引当を行いましたので、見通し内の範囲で収束すると考えおります。

以上